

始めまして、私は「佐世保の水と石木ダムを考える市民の会」の牛島です。
今回、知事が石木ダム建設に疑問を持つ佐世保市民の声を聞くという決断をされたことをとてもうれしく思います。若く聡明なる知事は、私たちの考えを理解され、石木ダム建設中止の判断をされる勇気をお持ちであろうことを信じています。

さて、私たちの会は、2017年よりコロナ流行する前の2019年まで佐世保の各地域11か所で、石木ダム問題を理解したいと勉強会を催してきました。反対する市民だけでなく、佐世保市水道局、推進派の市民にも参加していただき理解を深めたいと参加を呼びかけましたが、残念ながら参加していただけませんでした。そのため石木ダム建設反対のまもり隊のお話を中心に勉強会を進めました。そのような中で参加した市民の方々の多くが水道局や推進派の方はなぜ参加しないのか、説明を聞きたかったと残念がられていました。

私もそうですが、参加された方々の疑問は、水需要予測のグラフです。資料1を見てください。すでに2020年2021年は予測から実施に変わっていますが、全く反対に水需要は減っていて現在は7万トンを超える需要になっているという事実です。

それから石木ダム建設の必要理由としてあげられているのは佐世保が水不足であり、その解消です。しかし、勉強会で、その根拠となっている水源について大きな疑問が出てきました。水不足の理由は、安定水源7万7千トンでは足りないと言っていますが、通常でも渇水期でも安定水源と同等の取水実績があるにも関わらず不安定水源と佐世保市が言っております不安定水源2万8500トンの存在です。これを足しますと10万5500トンになります。

現在でも安定水源だけ佐世保市の需要は賄うことはできますが、安定水源は、7万7千トンしかない、だから佐世保の水は足りない、だから安定水源としての石木ダムが必要と佐世保市は佐世保市民に説明しているわけです。単純なる足し算引き算で、佐世保の水は足りていることがわかります。このグラフと表は小学生でもわかります。小学生もおかしいと思うでしょう。公共の福祉を理由として人権を侵害しても必要がある公共事業は、子どもでも理解できる説明でなくてはなりません。

私からの意見は以上です。ありがとうございました。